

# 特集

## 中部支部集会の開催報告

田中里佳（鈴鹿市文化会館 プラネタリウム・坂下星見の会）

### 1. はじめに

天文教育普及研究会中部支部集会在が 2019 年 11 月 16 日（土）、17 日（日）の 2 日間にわたり開催されました。三重県亀山市の鈴鹿馬子唄会館、ならびに隣接する鈴鹿峠自然の家 天文台「童夢」を会場とし、亀山の豊かな自然に囲まれた中での開催となりました。テーマを「星空の下（もと）での天文教育・普及」とし、観望会などでの実践例を中心に発表を募集しました。天文台での開催という最大の利点を活かし、室内での口頭による発表に加えて、夜間に実際の星空の下で行う実践発表の時間を設けました。

天文台「童夢」を拠点として活動している「坂下星見の会（代表：瀧本麻須美さん）」が毎年 10 月に実施している「親子でわいわい星まつり」、2019 年はあいにく台風と重なり中止となりました。予定していた企画を今回

の支部会発表の合間に盛り込み、また、月に 1 度の天文台一般開放の日とも重なっていたことから、1 日目夕方から夜にかけての時間は、支部会参加者だけでなく一般のお客様達も交えての時間として計画を立てました。

### 2. プログラム

1 日目（16 日）午後には基調講演 1 件、一般発表 3 件、ポスター発表 2 件と、夜に行われる実践発表の内容紹介を発表者より行いました。夕方より、「星まつり」企画として、リコーダーククラブ演奏、鈴鹿峠自然の家（旧坂下小学校）の壁面を使用したプロジェクションマッピングを実施。夜に天文台周辺にて、星見の会有志らの望遠鏡が並ぶ横で、星空の下での実践発表を行いました。2 日目（17 日）午前には一般発表 6 件と次回支部集会開催についての議論を行いました。



図 1 集合写真

**【基調講演】**

「星空の暗さは中途半端?! 実践活動のあゆみ」  
……瀧本麻須美 (坂下星見の会)

**【一般発表】**

「キトラ天文図のある場所で星を見ること」  
……和田浩一 (星のソムリエ京都)

「ケプラー望遠鏡の原理を学ぶ」  
……所 卓男 (坂下星見の会)

「どこでも望遠鏡の製作とお客様の反応」  
……森下和則 (坂下星見の会)

「ハートピア安八天文台の星見会実践事例」  
……船越浩海 (生涯学習センター  
ハートピア安八)

「ストーリー仕立ての観望会を作ろう」  
……田中里佳 (鈴鹿市文化会館  
プラネタリウム)

「核融合科学研究所においでませ〜第2回支部会のご提案〜」

……矢治健太郎 (自然科学研究機構  
核融合科学研究所)

「「長野県は宇宙県」の新展開」  
……大西浩次 (国立長野高専)

**【ポスター発表】**

「地域連携事業の一例 (木曾星の里づくり推進協議会)」

……青木 勉 (東京大学天文学教育研究  
センター 木曾観測所)

「熊野地域での星空の魅力発信活動の進捗」  
……伊藤信成 (三重大学教育学部)

**【実践発表】**

「秋の星座と天の川キラキラ探シツアー」  
……鈴木孝典 (四日市市立博物館天文  
ボランティア・坂下星見の会)

「ユニバーサルデザイン観望会」  
……野寺 凜 (黒部市吉田科学館)

「夜空で探す星座の形」  
……田中里佳 (鈴鹿市文化会館  
プラネタリウム)

「秋の夜空で天文学」  
……大西浩次 (国立長野高専)

**2.1 基調講演**

坂下星見の会代表の瀧本さんから、会の活動のきっかけとなった地元での天文活動、市と連携した天文台設置・運営の推進、さらに地域と連携して星空資源を楽しむ現在の活動スタイルへの展開についてお話いただきました。

天文台のある亀山市坂下地区は、かつては東海道の宿場町があり、難所として知られた鈴鹿峠のふもとにあります。周りを山で囲まれており、近くに大きな施設もなく、夜は十分に暗い場所ですが、講演のタイトルにもあるとおり、ものすごく美しい星空が見られるかという正直そこまでではなく、確かに「中途半端」な場所なのかもしれません。しかし、この天文台を拠点に活動する星見の会には、県内外を問わず、たくさんのメンバーが常時集っています。2020年の4月で、天文台設置からは10年、会の発足からは18年になるとのことですが、息の長い活動の根底にあるのは、瀧本さんのおっしゃるとおり、活動の場が提供されていることで感じる安心感のようなものなのではないかと思います。その上で、地域の小学校や福祉施設、科学イベントと連携した天文教育・普及の活動、また天文台で季節ごとに行っているイベントなど、メンバー各自が得意とする分野を活かして活動に参加できる土台があることが、継続的な会の運営の強みになっていると感じます。私自身も会のメンバーですが、いつもとても居心地よく活動に参加させて頂いています。その核心にあるものを、発表を通して、また他の参加者の方からの質問を通して、再確認することのできる貴重な機会となりました。

**2.2 一般発表・ポスター発表**

今回のテーマ「星空の下(もと)での天文教育・普及」に沿って、中部支部会メンバーだけでなく、地元の坂下星見の会のメンバー

や中部以外の地域からも積極的に発表がありました。

和田さんからは昨年9月に奈良県飛鳥地方で行われた星空案内イベント「飛鳥の宙（そら）」についての発表がありました。キトラ天文図で有名なキトラ古墳のある、まさにその場所で行われた星空案内ツアー。古代の天文図に描かれた星座を現代の星空でたどることで、まるでタイムスリップで時空を超えたかのような感覚を味わうことができます。

所さんからは牛乳パックを利用したケプラー式望遠鏡の工作を通して、小学校高学年を対象に天文講座を開いた報告がありました。リサイクルの観点から、天文・環境教育といった広い視点を子どもたちに提供できる機会になると感じました。



図2 一般発表風景

森下さんは自作の「どこでも望遠鏡」を持参下さり、室内での昼間のイベントや、雨天・曇天時の観望会でも活躍できるアイテムとして紹介していただきました。のぞくと思いがけず美しい天体が目に入り、子どもも大人も楽しめるアイテムでした。

船越さんからは、ハートピア安八天文台でほぼ毎週末に行われている星見会の内容を取り上げ、「満足感・感動を招く星空案内」のための工夫をご紹介いただきました。望遠鏡を通して個々の天体を実際に見る（＝横の糸）ことと合わせて、それら複数の天体を組み合

わせて宇宙についてのストーリーを描いた解説をする（＝縦の糸）ことで、宇宙への体系だった理解を促すことができます。

田中からは船越さんの発表でも触れられていた、ストーリー性を持った観望会についての提案をさせていただきました。

矢治さんからは次回中部支部集会として、核融合科学研究所での天文×異分野をテーマにした集まりを提案いただきました。来年度初め頃の開催に向けて、支部会のほうで具体的に議論を進めて参ります。

大西さんからは「長野県は宇宙県」の新たな展開として、「長野県星空ガイド」の育成についてお話いただきました。県内に多数設置されている天文研究施設や、県独自の地質や風土から生み出される環境を理解し、星空と共にそれらを活かして守っていく視点を持ったガイドを育成したいという思いにはとても共感できました（長野県に、行きたい！(笑)）。

ポスター発表では、伊藤さんから三重大学サテライト事業の一環として、熊野を舞台にした“神々が愛した星空”発信プロジェクトの発表がありました。また、青木さんからは木曾星の里づくり推進協議会の活動の紹介のほか、木曾観測所に新たに設置されたトモエゴゼンについて2日目の口頭発表の時間にも発表いただきました。

### 2.3 実践発表

お天気を心配していましたが、幸い晴れて星もたくさん見える夜となり、実際の星空のもとで発表を行うことが出来ました。天文台「童夢」やその周りに設置された望遠鏡たちで実際の天体を楽しむ時間を過ごしつつ、一般のお客様も交えて発表を聞いていただきました。

鈴木さんからは、カシオペア座から始まる秋の星座をたどりつつ、 $h\cdot\chi$ 二重星団にちなんだ渾身のギャグ（詳しくは鈴木さんの記事

をお読みください)を盛り込んだ楽しい星空案内を披露いただきました。

野寺さんにはユニバーサル天体望遠鏡一式などの機材を実際に持参いただき、車いす利用者でも楽に望遠鏡接眼部にアクセスできる環境、またアイレリーフの長いアイピースを使うことで誰でも気軽に望遠鏡を覗ける体験をさせていただきました。

田中からははくちょう座、ペガサス座といった形のわかりやすい星座をピックアップし、夜空の星を実際につないで星座の形を見せるチャレンジを行いました。昔の人と同じように、見上げた夜空で星をつないで星座を形作る体験をなぞることで、星空への興味を持つきっかけとなることを狙いました。

大西さんからは秋の星座たちの織り成すエチオピア王家の物語を語ると共に、登場する星座たちに見られる変光星を天文学の観点から解説することで、学術的な成果がより身近に感じられる楽しみ方を体験させていただきました。

## 2.4 「星まつり」企画

地元でも(全国的にも)有名なりコーダークラブの演奏が響き、毎年恒例のペットボトルキャンドルのやわらかい光に包まれた夜になりました。プロジェクションマッピングで浮かび上がる夜の旧校舎の姿はまさに幻想的で、みなさん見入っておられました(当日の様子については、瀧本さんの記事にありますのでそちらをご覧ください)。

## 3. おわりに

今回の支部集会には、天教会員・非会員合わせて32名の方々に参加いただきました。星まつり企画の準備をしてくださった坂下星見の会メンバーや一般のお客様も合わせると80名ほどになり、特に夜の時間は賑やかな時間を過ごすことができました。ただ今回発

表・参加の募集にあたり、中部地区で活躍されている学生さんたちの団体にも声をかけさせていただきましたが、どこもあいにく都合が合わず、若い世代の方たちに発表・参加して頂けなかったことが心残りです。次回に期待します。

お天気に恵まれて、夜に星空を眺める時間を十分にとれたことは何よりだったと思います。テーマとして設定した「星空の下(もと)での天文教育・普及」についても、天文台で過ごした時間と共に思い出して頂くことで、より深く考える端緒となれば幸いです。

集合写真を見て頂いてもわかる通り、今回(も)お衣装[1]を星見の会有志にて着用させていただきました。もはや名物!?とまではいかないかもしれませんが、楽しい場を作るささやかな一助となっていれば嬉しいです。

今回僭越ながら初めて世話人の一端を担わせていただきました。準備からサポート頂いた大西さんをはじめとした天教中部支部代議員のみなさま、前日を含む会場準備や当日の企画で多大なるご協力を頂いた坂下星見の会のメンバー様たち、そして全てにおいて瀧本さん、参加・発表を通してご協力頂いた皆様にこの場をお借りして深くお礼申し上げます。

## 注 釈

[1] ご覧になってわかる通り、メイドさんです。



田中 里佳